

## 人物図書館in北海道

著者	千葉 浩之
雑誌名	大学の図書館
巻	34
号	12
ページ	240-240
発行年	2015-12-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/00008597">http://hdl.handle.net/10258/00008597</a>

- ・千葉浩之「本当に成長する有機体と私」
- ・大田原章雄さん「印刷屋の息子が考えたこと」

それぞれ聴きごたえのあるスピーチで、大変刺激を受けました。結果的には、図書館の研究支援を料理に喩え、今後はより個人に寄り添った支援を行いたいと語った川村さんが6票を集め、「チャンプ本」となりました。

「本」を体験してみると、考えを5分間にまとめ、伝える難しさがある反面、声に出すことで自分のしたいことがはっきりとしました。また、「読者」からのフィードバックは「本」にとって大変心強いものです。

「人物図書館」は単なる懇談会以上に深いところで相手を理解できる場と言えます。現実の図書館において、その取り組みは最終的には図書館員ひとりひとりにかかっています。そういう意味で、図書館員が自らの考えを磨き、それを表現することはとても大切なことではないでしょうか。

今回は話す経験の多い方が揃いましたが、本当は話す機会の少ない方が胸に秘めている言葉にこそ価値があると思います。みなさまもぜひどこかで「人物図書館」をお試しいただければと思います。

(千葉浩之)

## 5. 人物図書館 in 北海道

8月24日(月) 13:00~15:00

参加者: 10名

「人物図書館」には紙や電子の本はありません。ここでは蓋付きペットボトルに限らず飲食ができ、会話も許されています。むしろ「本」が語ります。

全国大会終了後のランチタイムに京王プラザホテル札幌・地下1階のレストラン「あきず」にて「人物図書館 in 北海道」を行いました。

「人物図書館」は、考案者の坂口雅樹さんによればヒューマンライブラリーとビブリオバトルを組み合わせたイベントです。図書館員同士が少人数(10名程度)で食事をしながら「本」役の方(5名程度)の5分間スピーチに耳を傾けることで、相互理解・交流を深めます。最後に全員でもう一度読みたい(聴きたい)本に投票し、「チャンプ本」を決めます。「チャンプ本」はさらに5分間スピーチを行えます。

今回は坂口さんの進行のもと、北海道はもとより関東、関西から以下の5冊の本が集まりました(スピーチ順)。

- ・安東正玄さん「私が図書館担当次長(職員トップ)だったら」
- ・浅野隆夫さん「あってよかった! 図書館になりたい」
- ・川村路代さん「CHIYO'S キッチン」